

お母さんのためのお役立ちコラム

自己重要感を育てる 「いいところ探し」を始めよう!

子どもの成長において、親の言動は大きな影響を及ぼします。
なかでも、少しずつ学習を重ねていく5歳児の頃の親子関係は、
子どもの将来を大きく左右するといっても過言ではありません。
「いいところ」を見つけ、言葉にして伝えることで、
子どもはいつも前向きな姿勢を身につけていきます。

日本ハグ協会会長
高木さと子さん

誰にもできる簡単なコミュニケーション「ハグ」とコミュニケーションを合わせた「ハグニケーション」を提唱。企業、団体、家庭に向けてさまざまな講演活動やイベントに取り組んでいる。自身も15歳と13歳の男の子のママ。



5歳になるまでは厳しい競争もなく、誰からも愛され、可愛いがられてきた子どもですが、これから始まる学習習慣の中では、学ぶこと、受け止めること、乗り越えることにたくさん出会います。その時に重要なのは、「僕は大丈夫!」「私はできるんだ!」と自分を信じられるかどうか。この、自分を大切な存在だと認識できる『自己重要感』は、子どもの成長の過程だけではなく、大人になってからも大きな拠り所となります。高校時代の部活動や受験勉強など、誰にも目標と必死に向き合い、取り組んだ経験があるはずです。それを自らの力で乗り越えることができたという達成感や充実感、その人にとって「自分の未来を信じる力」となるのです。

世の中には子どもの成長過程にあわせたさまざまな教材があり、活用できる教育の手法は尽きることがありません。しかし、子ども自身の気持ちが萎えてしまえば、どんな教育方法や教材を使っても、その効果を十分に得ることはできません。だからこそ、幼稚園や保育園に通うこの時間に、子どもが持っているたくさん「いいところ」を探してあげるようにしましょう。「いつもニコニコ

しているところがいいね」「靴をそろえて家に上がるところが偉いね」「お友達がたくさんいるね」「ご飯をおいしそうに食べるね」…。いつもと変わらない、何気ない行動や出来事を言葉にして伝えることで、子どもは「存在を認められている」という承認欲求が満たされ『自己重要感』は高まっていきます。

社会で活躍する方に話を聞くと、多くの方が子どもの頃から両親に「あなたは素晴らしい」「君は何をやっても上手だね」と褒められ育ったと言います。昔から「人は言われたように育つ」と言われるように、自分の力で乗り越えられる「自信」を身につけるためにも、日々のコミュニケーションの積み重ねを大切にしたいものですね。

